

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Winter 2024

Dogushi

胴串 -どぐし-

Vol.44

特集

“人形劇のまち飯田”から発信
人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ



特集

“人形劇のまち飯田”から発信

人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

長野県内各地へ出かける出張ワークショップを始めて2年。専門的な技術を学べるものから、気軽に人形づくりを体験できるものなど各種プログラムを行い、人形劇の楽しさを広げています。今年度も各地で実施した様子を紹介します。



人形美術家の吉澤亜由美さん(写真左から2番目)指導のもと、3時間かけて完成した人形を手にして自分と対話したり、参加者同士で会話をしたりして動かしてみました



ハンドパペット

口をパクパクと動かせる人形や、顔にウレタンを使いかわい表情にしやすい人形をつくりました。(飯田文化会館5月・6月、信毎メディアガーデン9月、松川村図書館9月)



顔にウレタンを使う人形は全体のフォルムがかわいい雰囲気になるようフリース生地を使います



口がパクパクと動く人形は顔や胴体などのパーツを用意。自由に色合わせができるようにしています

じっくり時間をかけてモノづくりを楽しむ

張り子のお面

粘土でモデリングをして石膏で型をとり、その型に和紙を重ねて張り子のお面をつくりました。全4日。(飯田文化会館11月)



張り子に彩色や装飾を施して完成しました



2日目は石膏の型に和紙を張り重ねます

3日目は石膏の型から張り子を取り出し色付けです



1日目は粘土のモデリングから開始

わかりやすく話し、伝えるための基礎講座

飯田エフエムナビゲーターの佐藤圭代さんを講師に、日常生活で活用できる話し方や伝え方の基礎を学びました。全2日。(飯田市川本喜八郎人形美術館1月・2月)



20代から80代までの13人が参加。発声や滑舌の練習のほか、短文を読み合うなどして、佐藤さんが気になるところを丁寧にアドバイスしました



細かいところまでこだわって完成をめざします

うごいて楽しい どうぶつ人形

ウレタンでいろいろな動きができる人形をつくりました。ドラゴンと犬の2種類から選べる特別企画でした。(下條村立図書館9月)

子どもから大人まで一緒に楽しむ

ロリポップパペット

ウレタンと紙コップを組み合わせてペロペロキャンディのような人形をつくりました。(飯山市子ども館さらら10月)



目や口、洋服はフェルトや毛糸で飾り付けます

モンスターパペット

紙コップにつけて、はって、かいて、ぬって、自分だけの人形をつくりました。(佐久市コスモホール1月)



子どもたちの自由な発想でユニークな「モンスター」が出来上がりました。最後は音楽にあわせ全員で人形を動かして遊びました



発砲スチロール球でつくるハンドパペット

どこでもおじゃまして〜す♪

誌面に掲載したほかにもプログラムがあります。図書館や公民館、認定こども園などさまざまなイベントでモノづくりの楽しさを体験しませんか。なんでもご相談ください。



フェルトのちびっこ人形 はばたくマリオンネット



●問合せ/いまだ人形劇センター ☎050-3583-3594

夏の最大のたのしみ「飯田フェス」!!

人形劇サークルやじろべえ 小林 静子



シルクホテル玄関前にて(1998年)。写真左が筆者

次号は「人形劇団やじろべえ」の山本ちよびさんです

第33回 飯田へ通ず すべての道は

1979年にスタートした「人形劇カーニバル飯田」に初めて参加したのは、1982年でした。ワッペンを付けていればどの会場もフリーパス。大人も子どももキラキラ輝いて見えました。翌年から「研修」と称して、人形劇の仲間とともに飯田詣りが始まりまし

た。子どもの文化を子どもたちが、親御さんや祖父母とともに楽しんで欲しいと思いをしました。プロ劇団を招聘し、本物の人形劇を、生の舞台を一日だけの開催ですが、心の底から楽しんで欲しい!と願いました。1985年世界の人形劇フェスティバルを企画として開催し、1986年「人形劇子どもフェスティバル」の第一回がスタートしました。「飯田フェス」の真似事から始まった「足利フェス」です。今年で37回を重ねました。私たちにとって故郷飯田は、観劇して楽しんで、学ぶ場です。来年も人形劇と桃GET!!



わいわいパレードの行進が始まる前に「ビッグバード」と記念撮影

方々に依る人形劇を堪能して考えたことは、「地元でも人形劇フェスを立ち上げよう!」でした。

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり



写真左から高橋さん、三島さん、庄田さん、筆者、清水さん

- ※JANPIA 2019年に内閣府から指定され、休眠預金活用事業で中心的役割を果たす。この事業は、休眠預金を社会課題解決の資金に活用している
- ※長野県みらい基金 JANPIAから資金分配団体に選定され、当センターなどの伴走支援をしている

CSOへの支援や資金は多いとは言えません。休眠を活用した素晴らしい素晴ら

去る11月16日に、JANPIA主催の「休眠預金活用事業シンポジウム2023」ともに創る未来:伴走支援から生まれる社会の変化と担い手の成長」に長野県みらい基金の高橋理事長と共に参加しました。困難を抱えた子ども若者への支援方法と実行団体としての人形劇を通じた居場所づくりの取り組みについて、各々5分の発表と、その後武蔵野大学の清水さんとの質疑応答がありました。計25分間のセッションを通じて、参加者に私たちの活動への理解を深めていただきました。アンケートでは「日本の非営利セクターにおいて、アートや文化の分野の

しい事例だと思えます。」との感想をいただいたことも報告します。また別のプログラムとして「全国子ども食堂支援センターむすびえの三島さんとくわい」川口コミュニティ財団の庄田さんがプログラムオフィサーとして、それぞれの立場からの貴重なお話をしてくださりました。異なる分野の方々からのお話を参考にしながら、今後の活動に生かしていきたいと思

また、ほっこの新企画として10月から「ほっこりシアター」が始まりました。プロの公演を映像で鑑賞します。実際の舞台とは異なりますが、和室内にある大きなスクリーンで見ますので、迫力があ

りながら自宅にいるような感覚で楽しむことができます。いつもとはちよと違う場所遊びに来てみませんか。

いいた人形劇センター 事務局長 木田敬貴



人形劇団ブーク「死神」

ほっこりシアター

- 2月17日(土) 14:30~15:30 人形劇団むすび座 「トッケビー 兎ヶ島と呼ばれた島ー」
- 3月9日(土) 14:30~15:30 人形劇団ブーク「死神」

対象:小学校高学年~大人
料金:200円(ほっこり利用料金100円含む)
定員:各回20人
申込受付はEmail
hokkoripuppet@gmail.comへ



開所時間:毎週火曜、第1・3木曜、第2・4土曜 14:00~17:00
料金:100円。時間内は自由に入退室できます
場所:飯田市高羽町2-5-1 10台収容できる駐車場あり

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から④

偶人劇私説 黄眠瞳人(日夏耿之介)

黄眠瞳人は日夏耿之介が30以上の号を使った中の一つ。2000字程度3頁の短い「私説」だが、「予は偶人によりて抒情詩の対話的効果をあげ、偶人に寄りてのみ可能なる一種不可言の驚異世界を舞台上に実現せしめむと夢想す」と人形劇を語っている。このくだりは、「Über Marionette」論のゴードン・クレイグの影響ありかとも思うが、人形劇の本質についている。日夏耿之介が人形劇にも目を向けていたという点で興味深い。「MARIONETTE」(南江二郎主宰)、著名人らの出資による会員制人形劇雑誌で、1930年2月-31年8月の間、7号まで不定期に発行。この号はII-1となっているが本来はII-2である。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



MARIONETTE Vol. II-1 郷土演劇協会(1931年5月28日)



「アートの実」がたくさん実りました

たわわに実る りんごアートプロジェクト展



ほっこりと協働活動をする一般社団法人ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんごとの共催で、昨年12月7日から1月23日まで飯田市川本喜八郎人形美術館2F交流ゾーンにて「りんごアートプロジェクト展」が開催されました。令和5年度から始めた人形劇観賞や人形づくりワークショップの体験活動から生まれた企画です。



観賞した方も展示に参加。りんごの形をした紙にメッセージを書いて壁面の木に実らせました。

「丘のりんご」の仲間たちの日常生活から創り出されるアートを、会場の中央に建



「丘のりんご」の仲間たちが作品を持ち寄って飾り付けをしました

※いい大人形劇センターが取り組む「人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり」の活動は4面に掲載しています。



仲間たちと
(写真左から2番目が筆者)



上演の様子

ら急にこつちを向き、小さな声で「男子」また会いたいな、「私」えっ…「ズキューーン！」（矢が刺さった音）。なにこれ？子どもの言うセリフ？普通は、「また来てね！明日も来てね〜！」アハハ明日は来られないよ！ってな会話になるのに。無言で頬を赤くしているおばさんがそこいらいた…。

そう、日常の幼稚園保育園公演は、このように至福のシーンもある。朝早く暗いうちから家を出て、荷物を2階、3階にうんこら運び、仕込み、公演して、バラシ、またうんこら荷物運びの過酷なシーンもある。これが平日毎日となると、さすがのやりたいばっかりの私は、やりたくなくなるのである。

そろそろ、ほんわかシアターのテーマソングのようにゆっくりにゆっくりにいい〜のんびりでいい〜あ〜あ、あ〜あ私は大きなあ〜くびを一つ、本気で考えている今日この頃なのです。

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota



ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴィル・メジエールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。

1年間の挑戦

こんにちは皆さん！

今日の話は2022年から始まったことについてです。その時初めて「丘のまちフェスティバル」へ行きました。2010年からコスプレをしていますけど、大学では忙しくなってコロナ禍もあったから活動は結構減りました。だから飯田でもこんなイベントがあるのを聞いた時には絶対行きたいと思いました。でも日本に来た時にはコスプレを持ってなかったから、初音ミクの「龍ノ啼く箱庭抛り」に影響されたゴシックロリータコーディネートにしました。やっぱり皆の素敵なコスプレを見たら、私もランウェイに参加したくなりました。だから次の年のためにコスプレを作る挑戦に決まりました。

それで一年かけてローゼンメイデンの水銀燈のコスプレを手作りしました。2023年はコスプレランウェイに参加するのはできました！

あの機会では色々な人と会えて大好きなキャラクターの話ができて本当にうれしかったです。



コスプレ手作り用のプラン

ローゼンメイデンの水銀燈のコスプレ(丘のまちフェスティバル)

全人協通信 専門人形劇団事情⑮ 地域劇団の つづやき

ほんわかシアター代表
加藤K子

一般社団法人
全国専門人形劇団協議会(全人協)
人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることがめざし、1997年に発足。44劇団が加盟しています。

ほんわかシアターは、2024年4月で20年になります。

お母さんと子どもが、ホッとするとときを創りたいと、ひとりり始めて、2人、3人、4人と仲間が増えていきました。その間、人形劇のみならず、人形劇団ならではの音楽会にも挑戦！生楽器の音のおもしろさ、体を動かして声を出して歌うことの楽しさを、親子に届けてきました。

そして、最近の話題は「いつまで、続けますか？」。やりたいばっかりの私も今年古希。いやいや、東の先輩Mちゃんだって、西の先輩Kえさんだって、バリバリやっていますよ。中央の私だってまだいける!!

この間だって、保育園公演が終わって車に荷物を入れていたら、年長らしき男の子が水場で手を洗いながら顔だけこつちに向けて、「男子」おもしろかった！、「私」ありがとう！。再び手を洗いに戻り、もう終わりかと思つた

揭示板 いいだ人形劇センター からのお知らせ

川本喜八郎人形美術館 第30回常設展示に 同館初の人形が登場!

2月3日(土)から飯田市川本喜八郎人形美術館で新たな常設展示が始まります。NHKで放送された『人形劇 三国志』の印象的なシーン「五丈原の戦い」と、『人形歴史スペクタクル 平家物語』の世界が繰り広げられます。なかでも『平家物語』は開館以来初となる人形が展示されます。



- 開館時間 / 9時30分～18時30分
(入館は18時まで)
- 休館日 / 水曜(祝日開館)
- 入館料 / 大人400円、小中高生200円
- 問合せ / ☎0265-23-3594

Dogushi

並木 さんぽ

2018年春号から6年にわたり続いた連載『AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市』が本号で最終回となります。これまで日本、韓国、台湾、フランス、スペイン、チェコ、カナダ、ベルギー、ポーランド、ルクセンブルクなどAVIAMAに加盟している22地域の特色や、開催されるフェスティバルの様子を紹介しました。次号からは新たな連載がスタートします。お楽しみに。

次号は2024年4月発行予定です。(帆)

表紙画:井原千代子



新春恒例の公演「初春を寿ぐ竹田人形館」は4年ぶりに会場を竹田人形館に戻して開催され、かわせみ座によるマリオネットと、夏秋文彦さんが奏でる鍵盤ハーモニカやさまざまな楽器の演奏とのセッションを楽しみました。

最終回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市 飯田市 ②

2011年のAVIAMA(人形劇の友・友好都市国際協会)設立時、アジアから協会に参加しているのは飯田市だけでしたが、2018年の飯田での総会后、南あわじ市(兵庫県)、春川市(韓国)、雲林縣(台湾)が新たにメンバーに加わりました。

AVIAMAは、世界中の若手人形劇アーティストを支援するための助成金事業や、人形劇の分野で活躍した個人や団体へのAVIAMA賞の贈呈などを行っていますが、さらに活動の規模を大きくするために参加都市を増やしていきたいと考えています。

今後も人形劇を通じた世界のネットワークが大きくなって、人形劇界がさらに発展していくことを期待しています。



AVIAMA賞の受賞者に贈呈されるトロフィー